

慶應義塾大学が待望の 1 部リーグ昇格！
 次なる目標、2 部リーグ優勝に向かう

首位で 2 部リーグを折り返し、後期リーグは無敗と 3 年ぶりの 1 部復帰への道を着実に進んでいた慶應義塾大学。だが、勝てば昇格が確定する第 19 節の立教大学戦ではスコアレスドロー、続く第 20 節では 3-1 とリードした状態から関東学院大学に追いつかれるなど、ここ 2 試合は足踏み状態が続いていた。

後期の成績は 5 勝 5 分。これを「勝ちきれない」とるか「負けていない」とるか。MF 落合祥也 (4 年) は「勝点の一つひとつ積み上げてきたからこそ、今の順位がある」と語り、MF 八田和己 (4 年) は「自分たちは負け試合も引き分けに持っている力がある」と自信に変えた。

第 1 試合で 3 位の日本体育大学が敗れたことで、4 位の拓殖大学と戦う前に慶大の 1 部昇格は決定。やや拍子抜けの状態でキックオフを迎えたかのように思われたが、主将の DF 佐藤海徳 (4 年) は「逆に優勝と

いう目標が明確になって、プレッシャーを感じていた」という。その影響もあり、前半は拡大に攻め込まれる展開に。しかし 67 分、「チャンスは絶対にくる」と狙い定めていた MF 内桶峻 (3 年) が、MF 橋本健人 (2 年) のアーリークロスを右足で合わせ、2 試合連続となるゴールを決めて先制。これが決勝点となり、慶大が 3 試合ぶりの勝利を収めて 11 年ぶりとなる優勝に、大きな一歩を踏み出した。

主将の佐藤を始め、4 年生の多くは「自分たちが試合に出ていた 2 年のとき、チームを 2 部に落としてしまった」と悔恨の念を口に。そのリベンジとなった、1 部昇格決定。「昇格が決まってうれしい」と言うが、目標はあくまで 2 部リーグ優勝。「最後に優勝カップを掲げてサッカー人生を終えたい」(主将・佐藤) というラストシーンのためにも、最終節での勝利を目指す。



~11/16 選手昇格コメント~

【佐藤海徳 (4 年・DF・主将)】

僕たちは優勝を目指しているの、どちらかといえば第 1 試合で 3 位の日本体育大学が勝つか、引き分けるかしたほうがやりやすかったのですが、2 位の国士舘大学が勝ってしまったので、少しプレッシャーがあったのかもしれませんが。前半はそうしたプレッシャーからか、ミスや固さがありました。でも後半は互いにカバーしながら、サッカーを楽しめるようになったのでよかったです。僕たちが 2 年生のときに、チームを降格させてしまったので、そのリベンジを果たせたいと思っています。ただ、今年のチームは昇格ではなく優勝を目指しているので、チームに貢献できたという感覚はまだありません。優勝してはじめて、怪我をした僕に「待っているぞ」と表現してくれた仲間たちに、恩返しができると思っています。

【八田和己 (4 年・MF)】

僕たちの代が落としてしまった舞台に、しっかり戻すことができました。それはこの 1 年間、積み上げてきた結果だと思うので、うれしい気持ちでいっぱいです。1 部は 2 部と違ってスタジアムで試合ができるし、注目度も違うと思います。その中で慶應の強みを出していけば、間違いなく 1 部でも戦える強さはあると思うので、後輩たちには 1 部優勝を目指してがんばってほしいです。

個人的に印象に残っているのは、前期の日本体育大学戦 (第 3 節 301)。昨年や一昨年までは、相手に先制されたら逆転勝利できないという流れがあったけれど、あの試合で逆転勝利してからは「今年は逆転できる」とか「苦しい展開でも勝ち切る」「負け試合でも引き分けにもっていける」という力が、自分たちにはあると自信をもてました。そのきっかけとなった試合だと思います。

今日は、個人的に修正点の多い試合でした。攻撃面で、もっとしっかりつながりたがらないといけなかったです。次の試合では、すべての力を出し切って、最高の形で終わりたいと思います。

【落合祥也 (4 年・MF)】

簡単な試合はひとつもなく、どれもギリギリの戦いでした。それを勝ってきたからこそ、今の順位があると思っています。自分たちは 1 年間、ずっとチャレンジャーという気持ちを持ち続けていました。それが結果につながったのだと思っています。

個人としては、1 年のところから試合に絡むことが多かったけれど、当時は偉大な 4 年生がずっと引っ張ってくれました。次の年は自分たちの代が多く試合に出ていたのですが、2 部に降格してしまいました。その悔しさがあつたうえで、今年の昇格だと思っています。本当は去年に昇格したかったのですが、僕個人としても去年は全然試合に出られなくて、苦しい 1 年間でした。けれど、最後に試合に出ることができて、まずは最低限の昇格を決めることができたのでよかったです。次の試合で優勝を決めることができたなら、いい形で 4 年間を終えられるのかな、と思います。

1 部でプレーするということは、自分たちからしたらすごくうれやましいことです。結果にこだわるのも大切ですが、まずはその舞台をしっかり楽しめば、結果はあとからついてくると思います。

【内桶峻 (3 年・MF)】

今日の試合がすごく意味というのは、すごく大きかったと思います。日に日にこのチームのできる試合、4 年生とできる時間が減っていく中で、昇格もなかなか決められませんでした。いろいろプレッシャーがかかる中、自分のゴールで勝ち切ったことで印象に残る試合になりました。前半は相手に攻められて、守備陣がすごく耐えてくれたのに攻撃陣は何もできていない状況。このままでは終われない、とずっと思っていました。カウンターチャンスは絶対にくると思っていたので、その 1 回のチャンスは必ず決めきろうと狙っていました。

来年 1 部の舞台で戦えるのは光栄なことですし、その中で慶應の力を見せる自信はあります。上位に食い込んでいけるよう、がんばってまいります。

2019 年度 第 68 回全日本大学サッカー選手権大会

■日程■

【1 回戦】

12 月 11 日(水)①11:00②13:30
 @浦安、AGF、川口、柏の葉

【2 回戦】

12 月 14 日(土)①11:00②13:30
 @味フィ西、AGF、浦安、柏の葉

【準々決勝】

12 月 16 日(月)13:00
 @味フィ西、AGF、川口、柏の葉

【準決勝】

12 月 19 日(木)13:00
 @浦和駒場、NACK5

【決勝】

12 月 22 日(日)13:00
 @浦和駒場

■正式会場名 浦和駒場=浦和駒場スタジアム、NACK5=NACK5 スタジアム大宮、味フィ西=味の素フィールド西が丘、AGF=AGF フィールド(味の素スタジアム西競技場)、柏の葉=柏の葉公園総合競技場、浦安=浦安市運動公園陸上競技場、川口=川口市青木町公園総合運動場陸上競技場

取材・文：飯嶋玲子 発行：(一財)関東大学サッカー連盟

国士館大学が 1 年での 1 部リーグ復帰を達成！

1 部リーグ昇格の可能性がある上位 4 チームが一堂に会した中台運動公園陸上競技場。2 位の国士館大学は、勝点 4 差の 3 位・日本体育大学と激突。引き分け以上で国士大の 1 年での 1 部リーグ復帰が決まる有利な状況だが、細田三二監督代行は「勝って昇格を決める」と意気込んだ。

しかし先制点を奪ったのは、追う立場の日本体育大だった。キックオフから 1 分も満たない、電光石火のゴール。瞬間にリードを奪われたが、国士大が焦ることはなかった。選手たちの多くがターニングポイントだと口を揃える。第 19 節の拓殖大学戦。一時は 0-3 と拓大に引き離され、昇格争いからの脱落もちらつき始めた試合で、国士大は驚異的な反撃を見せた。79 分からのわずか 10 分間のうちに 4 点を奪取し、逆転に成功。この劇的な勝利で国士大は昇格戦線に生き残った。その経験が、選手たちを強くした。

5 分には MF 松本拓海 (4 年) のロングキックが、そのままゴールに入って同点。「逆光が GK の目に入ったのかもしれない。アク

シデントみたいなゴール」(細田監督代行)。だが、この同点ゴールを機に国士大が一気に日本大ゴールに襲いかかる。19 分に FW 福原昭 (4 年) が、MF 松本の左からのクロスを頭で合わせて追加点を挙げると、その 3 分後にも FW 福原が自らゴール前まで持ち込んで 3 点目。26 分には日本大に PK を献上して失点するものの、34 分には MF 谷村海那の 2 試合連続ゴールで 4-2 と突き放した。

目標とする 1 年での 1 部復帰を達成した国士大。だが、細田監督代行は「エレベーターのように降りたり上がりったりのチームではダメ」ときっぱり。1 部と 2 部の“行き来”を経験している 4 年生たちも「1 部に定着することが大切。そしてインカレを目指してほしい」と後輩たちに来季の希望を託す。2 部 12 チーム最多、首位・慶應義塾大学を 10 点も上回る、50 得点の爆発的な攻撃力がチームの躍進を支えた一方、失点の多さは大きな課題だ。「今の技量では 1 部に残っていけない。鍛え直して、1 部でも国士大らしいサッカーをしたい」。細田監督代行は、そう来季を展望した。



【住吉ジュエリネーション (4 年・DF・主将)】
 今シーズン目標としていた 1 部リーグ昇格を成し遂げられて本当にうれしいです。今日は前半のうちに警告を受けて、その時点でもう、累積警告で最終節は出られないことがわかっていました。非常に悔しいけれど、昇格を決める試合に出られて、勝利に貢献できてよかった。残り 1 試合、まだ優勝がどうなるかはわかりません。最後までチームとして戦い、自分もピッチの外から応援したいと思います

【明本考浩 (4 年・MF)】
 1 部昇格を全員で掴み取ることができて、率直にうれしい。ただ、1 部リーグはそんなに甘くないので、これからチームとして鍛え直すことが必要。しっかり走って、来年も国士大らしく戦ってほしいです。個人的には、ユニバーシアード代表に選ばれてプレーの幅が広がったし、落ち着きというか、余裕をもってプレーできるようになった。今年 1 年間、本当にいい経験をさせてもらったと思っています。

【高橋利樹 (4 年・FW)】
 昇格という、最低限残すべき結果を残せたことで、ホッとしているというのが率直な感想です。自身としては点を取れない時期も続きましたが、そういうときには自分が何をできるか、チームにどう貢献できるかを考えていました。がむしゃらに走ったり、自分でできることは一杯やったと思っています。1 部を経験した身からいうと、1 部と 2 部の差はけっこう大きい。春に力をつけて、インカレ出場を目標にがんばってほしいと思います。

【福本昭 (4 年・FW)】
 得点シーンは、正直ボールしか見ていませんでした。とにかくボールに触ることしか考えていなかったし、2 ゴール目はコースがなかったの、相手の股(の下)を狙ったら、そのままゴールに入ったという漢字です。シーズン前はトップチームにいましたが、怪我也あって追加登録でトップチームに合流したのは 9 月下旬くらい。最後に間に合って本当によ

かった。自分たちは 1 部と 2 部を上がったり降りたりだったので、後輩たちには 1 部に定着できるようにがんばってほしいです。

【網島悠斗 (1 年・DF)】
 自分にとっては初めての昇格なので、(昇格決定の瞬間は)すごく気持ちよかった！今シーズン、最初のほうは数少ない 1 年生のスタメンということで不安や緊張もありましたが、ジュエリさん(住吉ジュエリにレション)や(谷村)海那さんたち 4 年生が引っ張ってくれたので、次第に落ち着いてプレーすることができました。来季は自分にとって初めての 1 部ですが、自分たちのサッカーを徹底して、ひるむことなく優勝を目指したいと思います。

【澁谷雅也 (3 年・MF)】
 昇格できて本当によかった。今日は相手にボールをもたれる時間帯が長かったのですが、その中で集中力を切らさず戦えたことはよかったと思います。今年 4 年生に引っ張ってもらってここまで来ました。来年は自分たちが最上級生です。1 部の舞台で、自分たち 4 年生が中心となって下級生を引っ張れるよう、がんばりたいと思います。来季は 1 戦 1 戦全力で戦って、印象に残る試合少しでも多くしたいです。

【田代雅我 (3 年・GK)】
 ひとりで言うて最高です。自分たちの手で昇格を掴み取れたことがいざばうれいしです。昇格を決める試合で、高校(日本大学藤沢高校)時代からずっと一緒にやっていたジュエリ(住吉ジュエリにレション)と同じピッチに立てて、本当によかった。まだ 1 試合残っていますが、今年 1 年間やってきて、全部が出せた試合だと思います。来季は相手が 1 部のチームになりますが、自分としては負ける気はしません。ただ個人としてはもちろん、チームとしても結果を残さないといけないと思うので、自分が失点をなるべく防いで、チームの勝利に貢献できるようにしたいと思います。

2019 年度 第 68 回全日本大学サッカー選手権大会

■日程■

- 【1 回戦】**
 12 月 11 日(水)①11:00②13:30
 @浦安、AGF、川口、柏の葉
- 【2 回戦】**
 12 月 14 日(土)①11:00②13:30
 @味フィ西、AGF、浦安、柏の葉

■準々決勝■

- 12 月 16 日(月)13:00
 @味フィ西、AGF、川口、柏の葉

■準決勝■

- 12 月 19 日(木)13:00
 @浦和駒場、NACK5

■決勝■

- 12 月 22 日(日)13:00
 @浦和駒場

■正式会場名 浦和駒場=浦和駒場スタジアム、NACK5=NACK5 スタジアム大宮、味フィ西=味の素フィールド西が丘、AGF=AGF フィールド(味の素スタジアム西競技場)、柏の葉=柏の葉公園総合競技場、浦安=浦安市運動公園陸上競技場、川口=川口市青木町公園総合運動場陸上競技場